

# 次期地域情報化に向けたICT利活用の調査・検討

## 地域イノベーションモデル検討書



一般財団法人 全国地域情報化推進協会  
<http://www.applc.or.jp/>

ICT地域イノベーション委員会  
地域情報化備促進ワーキンググループ

## はじめに

政府は、平成25年6月14日に「世界最先端IT国家創造宣言」を閣議で決定された。その基本理念では、情報通信技術は『あらゆる領域に活用される万能ツールとして、イノベーションを誘発する力を有しており、我が国GDPの約7割を占めるものの低い水準にとどまっているサービス産業の生産性の改善を始め、成長力の基盤となる生産性の向上に資することはもちろん、生産性の向上のみならず、女性や高齢者等の雇用促進等、労働投入の量的拡大も期待でき、経済再生や社会的課題解決にも大きく貢献するものである。』と定義されている。

今後、平成32年（2020年）頃までに、世界最高水準のICT利活用社会の実現とその成果を国際展開することを目標としている。

地域では少子高齢社会の進展など様々な課題を抱えており、行政課題や地域課題等の社会的課題に対応すべき地方公共団体の果たす役割は、ますます大きくなっており、社会的課題解決の切り札として、情報通信技術（ICT）への期待が集まっている。

地方公共団体が直面する様々な行政課題や地域課題を解決するにあたっては、地域の状況を反映した、真に住民へ役立つICTの利活用を推進することが重要であり、地域ごとに異なる状況を把握して地域の特徴に合わせて取組を活かしていくことが求められている。

これまで地域課題を解決する手段として、地域の課題に対応して新たなシステム構築や既存システムの組み合わせ等で課題解決する『ソリューションモデル』がある。

その中でも地域住民の安心安全や医療、教育の現場などで実施しているICTを利活用した事業は、地域住民のニーズや医療や教育の従事者から課題に対応していることから多くの事例が継続して運用されている。

一方で、先行してシステム導入を済ませて公共サービスを実施するケースでは、地域や住民ニーズに即していないものは利用者の定着が低く、維持管理コストなどの問題から事業継続できなくなるケースがある。このようなケースでは、目的と手段が逆転してしまい地域のニーズ把握よりもサービスを優先してシステム導入を行って失敗しているケースである。

また、常に『導入コスト』や『運用コスト』など費用に関する課題あげられる。コストを抑えるために共同で利用する形もあるが、参画するお互いの地方公共団体に効果の上がる仕組みになっていないと苦勞するだけで成立することはできない。

以上の国や地域の動向などの背景を踏まえ、APPLICのICT地域イノベーション委員会、地域情報化促進WGでは、地方公共団体や地域住民が抱えている課題の解決方法などについて、新たな切り口、新たな捉え方、新たな活用法の提案を目的とし、地方公共団体及び企業ベンダで検討体制を作り、地域住民の視点に立った地方公共団体の行政課題解決に有効なモデルの検討を行った。地方公共団体で進められている地域情報化計画のプランニングに対して従来のモデルにとらわれない運用形態・コスト・技術進展の将来動向などを考慮し、民間サービスの積極的な活用など「地域イノベーションモデル」の基本的な考え方を示している。

ICT利活用による地域情報化は、様々な困難を超えながらも地域住民などの利用者ニーズを的確にとらえたものは事業継続している。地域が抱えているそれぞれの課題を地方公共団体が明確して、親和性のある地域の関係施設や企業などに情報発信して官民協働で解決に向けて取組を進めることも検討していただきたい。

本検討書は、地方公共団体で地域情報化推進する情報化部門及び関係原課の皆様にお読みいただき、是非、地域情報化を進める際に参考にしていただければ幸いである。

## 目 次

第1章 検討の背景と検討方法	1
1. 1 背景、問題提起	1
1. 2 検討の成果物が目指す方向	2
1. 3 地域イノベーションモデルの検討手法	3
1. 3. 1 「地域イノベーションモデル」の検討手法	3
1. 3. 2 「テーマ別イノベーションモデル」の検討手法	5
1. 3. 3 曖昧なイノベーションのポイントの検討手法	6
第2章 地域情報化に係る成果・課題の検討	8
2. 1 検討対象地方公共団体の概要説明	8
2. 2 三鷹市における地域情報化の取り組み沿革	8
2. 3 横展開や事業継続性の参考要素抽出と汎用化	10
2. 3. 1 成果の抽出と汎用化	10
2. 4 テーマの集約	15
第3章 地域イノベーションモデルの策定	16
3. 1 検討テーマ	16
3. 2 教訓と対策案の検討	18
3. 3 地域イノベーションモデル	28
3. 3. 1 地域イノベーションモデルのまとめ	29
3. 3. 2 地域イノベーションモデルのイノベーションポイント	29
3. 4 地域イノベーションモデルの参考とした先行事例	30
3. 5 テーマ別のイノベーションモデル	32
3. 5. 1 ICTの導入を成功に導く体制及び土壌の構築	33
3. 5. 2 ICTを導入する前に考慮すべき条件及び設計	37
3. 5. 3 サービスの利便性・利用度を上げるための工夫・提言	45
3. 5. 4 将来的な運用継続とサービス拡充	50
3. 5. 5 利用者端末・回線の展開	54
3. 6 イノベーションモデルのまとめ	58
第4章 情報通信技術に関する調査・検討	60
4. 1 スマートデバイス：現状・将来予測普及率等	60
4. 1. 1 携帯電話（ハンドセット）市場	60

4. 1. 2	携帯情報端末市場.....	61
4. 1. 3	今後登場するスマートデバイス.....	62
4. 2	各通信回線の選定に向けて.....	63
4. 2. 1	通信回線の特徴.....	63
4. 2. 2	各通信回線の比較.....	64
4. 3	公共ASPサービス.....	65
4. 3. 1	健康関連サービス.....	65
4. 3. 2	見守りサービス.....	67
4. 3. 3	買い物支援サービス.....	69
第5章	政府・地方公共団体のオープンデータの活用方法の検討.....	70
5. 1	検討の背景.....	70
5. 2	国のオープンデータの動向.....	71
5. 2. 1	オープンデータ活用の意義と目的.....	71
5. 2. 2	政府のオープンデータ推進における具体的な取り組み.....	71
5. 3	地方公共団体に求められるオープンデータの活用.....	72
5. 3. 2	地方公共団体に求められる取り組み.....	72
5. 4	オープンデータが実現させる地域イノベーションの方向性.....	75
第6章	次期地域情報化『地域イノベーションモデル』の提案.....	77
(参考資料1)	アクトビラを活用した地域情報発信(株式会社アクトビラ).....	80
(参考資料2)	やまなしFree Wi-Fi プロジェクト/富士の国やまなし観光ネット(山梨県).....	84